



教祖140年祭

If you do not follow the path of the Divine Model, there is no need for a Divine Model... There is no path but the path of the Divine Model.

Osashizu, November 7, 1889

ひながたの道を通らねばひながた要らん。(略) ひながたの道より道が無いで。
(おさしづ 明治22年11月7日)

末代まつだいの理りが深ふかくなる

「末代まつだい」とは一般に、末すえの世、死んだ後の世を意味します。天理教では、人間は生まれかわり出かわりしていくもので、一代限りではなく永遠に続くことを意味するともに、親から子、子から孫へと代々続いて行く意味で用いられます。

教祖おさしづは、
「二代より二代、二代より三代と理が深くなるので。理が深くなつて、末代の理になるのやで。」

(稿本天理教教祖伝逸話篇九〇「二代より二代」より)
と仰せられ、おさしづでは、

「教会名称、末代の道」(明治37年7月15日)
と教会のあり方についてお教え下さっています。

たとえば企業の平均寿命は一般的に30年と言われている世界で、100年以上続く企業が一番多いのは日本です。それも世界の50・1%、約3700社が日本企業という事実から、幸いにも私たちは末代の姿を具体的にイメージしやすいのではないのでしょうか。

「母が生涯かけて信仰し、人たすけの道を歩んでくれた布教所を解散するのはしのびない。私が後継します。」と心を定められた娘さんがいらっしやいます。その後、患っていた病氣は平癒のご守護を頂かれ、子供達も信仰につながり、布教所では毎日おつとめが勤められています。

「理が深くなつて、末代の理」ありがたいです。

本島大教会布教部(宮)